

---

宮 嶋 怡 正

議長（村松 積） では4番、宮嶋怡正君、質問を許します。登壇願います。

4番（宮嶋 怡正） 4番、宮嶋怡正です。

私は、先に通告をいたしました2つの質問をいたします。

1つ目は、12月議会で20年度より始まります「子供農山漁村交流プロジェクト120万人、自然の中での体験活動の推進について」、受け入れ可能なモデル地域に指定を受けるべく、取り組みをとということで質問をいたしましたが、4月25日に開いた選定審査委員会で、全国で先導型受け入れモデル地域14カ所、体制整備型受け入れモデル地域36カ所の計50カ所が決まったということで、南信州地域飯田下伊那15市町村ですが、先導型受け入れ地域に選ばれました。

この事業は、全国の公立2万3千校の小学校、一学年120万人を目標で、体験活動を展開することを目指し、今後5年間で農山漁村における宿泊体験の受け入れ体制を整備するということでもあります。

農山漁村で、自然の中で、長期宿泊体験活動をすることによって、思いやりの心、学ぶ意欲や自立心、豊かな人間性や社会性をはぐくみ、心豊かな子供の成長を支える教育活動として、総務省、文部科学省、農林水産省の3省がプロジェクトチームを作って押し進めております。

下條村として、自然体験、集団宿泊体験のできる拠点施設の整備を行っていく必要があると思いますが、村長のお考えを示していただきたいと思います。

2つ目の質問は、信南交通が路線バスの撤去後の公共交通としての対応について、ただいま小池議員よりの質問で村長より答弁をいただきましたが、南部広域で協議会を立ち上げて、2つのゾーンを主体に協議を重ねているということではありますが、より住民が望んでいる時間帯での運行。高校生の通学帯での運行に向けて取り組んでいただくことをお願いを申し上げまして質問といたします。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

子供農山村交流プロジェクトの受入れ拠点施設等についてのご質問でございます。

これは議員ご指摘のように、この推薦につきましては、積極的にやり、またそれぞれの

国会議員の先生方にも大変なご協力をいただいたわけでございます、4月25日に内示がございました。

先導型ということでございまして、長野県では飯山市、大町市、伊那市、下伊那の4拠点が研究会の指定を受けたところでございます。これはひとえに実績があったということございまして、今日まで努力いただいております皆さんにも感謝しております。

早速、南信州広域では、このプロジェクトを立ち上げまして、南信州観光公社これも含め、それから代表する関係団体、さらには各市町村の首長が当たり、今後の飯田下伊那における受入体制の研究・検討することを目的に動き出しております。

「受入拠点施設の設備支援等」につきましては、この交流プロジェクトに受入地域として選定された地域を対象に、受入体制等の整備を図ることを目的に設置された支援策であります。支援につきましては、交付金として措置されることになっておりますが、現段階ではまるでまだはっきりしておりません。

このごろも国交省のアンケートがまいりまして、どこをどういうふうに希望しておるかというようなことが出てまいりまして、私どもでは最初に睦沢の廃校になっている保育園を一応挙げておきました。その他、地球子供の家関連もでございます。

もしあれだったらここの村民センター、これ宿泊もすべて整っておるわけでございますので、これも状況によってはカードとして使っていきたいなと思っております。

これにつきましては、私は大きな思い違いをしておりましたけれども、1つは関連の皆様にお聞きいたしましたら、地球子供の家としての課題としては、受入インストラクターの確保、これはそんなに難しい問題ではないと思う。受入人数の検討。これはまだ決まっていないので、これもそんなに難しくないと考えますし、プログラムの内容があまり明確ではないということございまして、大体プログラムというのは、決まったお子さんを5日以上滞在させていただくと、体験してほしいというのが趣旨でございまして、特に阿南町の阿南少年の家なんかはもっとも適しておるのではないかなと。あそこらとも当然連携を取るわけでございます。

今、子供の自立心だとか、それから耐える力、それから自然にはぐくみながら心の潤いを与えとか、いろいろの問題がございましたけれども、もう1つの今の時代になってみますと食の安全、安心。これを農家の皆さんが本当に黙々と作り上げて、安定的に供給し

ておっていただけるということも、しっかり学んでいただければありがたいなと思っております。

それから私の一番確かだなと思ったことは、下條連絡協議会というのがございまして、古田昌可さんが会長でございますけれども。「受入日数が長期間では対応できない」と、これは「なるほど」そのとおり。私はもう少し簡単に考えておって「お前たちは草むしっておれ、夕飯になったら温泉に連れて行ってやるで、一緒に車に乗れ」くらいでいいと思ったら、受け入れ家庭、ホスト家庭というのは相当気をつかうそうでございます。これもどのくらい気遣いをダウンしながら。同じ親田の中でも「一週間くらいなら対応できますよ」という家庭もあるんですけども、大半の皆さんがこりゃ4日も5日もおられたらとてもじゃない、へとへとになってしまうのかなということでございます。

受入回数も限度があるというようなことでございますので、こうしたことをいろいろ加味しながらやっていくつもりでございます。

いずれにいたしましても、本当に今日本というのは荒れすさんでおります。先ほども申しましたように、秋葉原でもあんな問題が起き、何も無差別に人を殺して平気であるというような、こんなすさんだ世の中にするということは、やはり全国民の心がすさみ過ぎておるということでございます。

やはりこれから次代を背負っていただける子供さんには、本当の意味で潤いのあり、思いやりのある、温かみのある人間社会を作っていただくには、あの年代で大いに体験しておっていただければ非常にいいことございまして、そんな国家的な意味もあるわけでございますので、皆様方にもまた最大な知恵を出していただいて、また最大のまた労力もお借りしながら、先ほども申しましたように、私どもどうしても必要ということになれば、この施設を使ってくれということも、提案していきたいなというくらいに思っておるところでございますので、また皆様方の立場でもいろいろご意見聞かせていただければ幸いです。

以上で答弁終わらせていただきます。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問ありましたら。4番、宮嶋怡正君。

4番（宮嶋 怡正） ただいま、村長より答弁いただいたわけですが、長期宿泊について、農家では非常に負担が大きいという、もっともだと思います。この長期宿泊の内容に

ついて、若干違いますので報告をさせていただきます。

今の時点では、4泊5日を想定しておりまして、そのうちの3泊が集団で、拠点で集団生活をする中で宿泊ということで、長期間の中で1泊だけは農家民泊ということでありますので、そういうことでお願いをいたします。

ただいま村長より阿南少年の家の件が出ました。横浜市内のこれは教育関係者が30人ほどであります、5月の10日の日に阿南町へ農家宿泊拠点施設の候補として、阿南少年自然の家を下見に訪れておりまして、7月から9月にかけて横浜市内の4つの小学校が自然体験、集団宿泊体験、先ほど申し上げました4泊5日のうち1泊が農家民泊であります。行われる計画になっております。

下條村は、先ほど来、話があるように、さまざまな取り組みで全国の各方面から高く評価をされまして、南信州地域内では小さくても輝く村づくりをしている村として、全国で一番名の知れ渡った、魅力のある村として知れ渡っております。

当然、全国の教育関係者の方々もかなり注目をいたしてございまして、子供やその両親も、これまたの名をセカンドスクールといいます。セカンドスクールの候補地として下條村を望んでおられる方がかなりおられると思いますので、なんとか集団宿泊体験ができる拠点施設の整備に向けて、検討をしてぜひ実現に向けてお願いをいたしたいと思っております。

以上であります。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 今ご指摘のとおりでございまして、地域としては一週間程度、括弧として原則4泊5日以上ということでございます。

それからご指摘のように民宿には、「1泊以上を宿泊し」ということでございます。1泊というのは、学校としてはできるだけ2泊くらいはしたいというのが、今までのお世話になった皆さんの学校の集約だそうでございまして、大体の学校が1泊では悲しかったなという、生徒がそれだけ感動したということでございますので、1泊以上宿泊しと、農林業の生活を体験することということで決まっておるんで、基本的には宮嶋議員の方が正しかったなと。私の答弁が若干問題があったということで訂正させていただきます。

議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問。

4番（宮嶋 怡正） ありません。